

和歌山大学大学院観光学研究科への博士課程設置について

【日本における観光学及び観光学博士課程の現状及び設置の必要性】

- 既存の博士課程は全て東日本の大学に設置

観光学博士課程を有する大学は3大学のみ（日本人の観光学博士はわずか14名）
北海道大学（定員3名）、東洋大学（定員3名）、立教大学（定員8名）

- 和歌山大学は、関西で唯一、観光学部・大学院修士課程の両方を有する大学

- ・平成19年4月：経済学部に関光学科設置《定員80名》
- ・平成20年4月：観光学部（観光経営学科、地域再生学科）設置《定員110名》
- ・平成23年4月：大学院観光学研究科 観光学専攻（修士課程）設置《定員5名》
- ・平成25年4月：和歌山大学大学院観光学研究科博士課程の設置(予定)《定員3名》



和歌山大学に「博士課程」を設置することで、関西の観光振興に関する高度な見識を持つ人材を育成することが可能となる。

【博士課程設置による関西へのメリット】

- グローバルで高度な視点を持った、関西地域の観光振興を担う人材を育成

⇒ 高度な観光知識・観光研究に基づいた、新たな観光振興策の創出が可能

- 産官学連携の促進（研究成果の観光施策への活用、研究分野での企業との連携）
- 関西地域における観光系学部・学科を有する大学との連携
（観光研究を目指す人材の関西からの流出防止、関西の観光学全体の底上げ）

【和歌山大学大学院観光学研究科博士課程設置に向けた取組】

- 別紙要望書を文部科学大臣あてに提出する。和歌山大学の大学院観光学研究科博士課程の設置について、関西が盛り上がっているということを文部科学省に提示する。

文部科学大臣あて提出

和歌山大学大学院観光学研究科博士課程設置に係る要望（案）

関西地域は、京都や奈良などの世界的な歴史都市や、世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」を始めとして、多数の温泉、景勝地を有する観光資源に恵まれた地域であり、地域の発展にとって観光産業の振興は特別に重要な位置にあります。

地域に根を張りつつグローバルな観点から観光振興を図るためには、産官学連携を通じた「学」の側からの貢献が欠かせません。とりわけ、これからの観光振興を担うべき人材の確保は大きな課題です。

「観光立国」が叫ばれて以降、全国的に観光系学部・学科の設置が進んでいます。関西地域における最大の問題点の一つは、和歌山大学大学院修士課程の存在を除き、観光系の大学院が皆無であることです。とりわけ博士課程に至っては、全国的にも3つの教育機関しかない中で、そのすべてが東日本に立地している状況です。観光先進諸国の状況と対比するとき、観光分野における高等教育・研究の立ち後れは明らかであり深刻です。

こうした中、和歌山大学に博士課程を設置することは、関西地域の観光高等教育の空白を埋めるとともに、関西地域の観光系学部・学科全体の水準の向上に資するものであり、観光人材の養成に大きく貢献するものと、関西広域連合としても大いに期待しているところです。

和歌山大学観光学研究科博士課程の設置について、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年 月 日

関西広域連合

連合長	兵庫県知事	井戸敏三
副連合長	和歌山県知事	仁坂吉伸
委員	滋賀県知事	嘉田由紀子
委員	京都府知事	山田啓二
委員	大阪府知事	松井一郎
委員	鳥取県知事	平井伸治
委員	徳島県知事	飯泉嘉門